

2014 年度会報 街中ゆったりカフェ

■ 目次	ページ
1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 活動記録・・・・・・・・・・・・・・・・	1
記録	
定例会様相	
3. 講演会記録・・・・・・・・・・・・・・	3
歴史家の講演：7/23	3
6/11	5
4. 寄稿文・・・・・・・・・・・・・・	7
アルプスのちいさな村	7
貧困を脱し「普通の生活をしたい」女性たち	9
ショートエッセイ 4 編	10
5. 調査・研究・論評・・・・・・・・・・・・	11
立山町横江の蔵王社	
6. 資料・・・・・・・・・・・・・・	13
7. おわりに・・・・・・・・・・・・・・	13
	End=13

1. はじめに

本会がスタート(13年11月20日)して早や二年目になりました。最初は4人からのスタートでしたが、回を重ねるに従い坂者が増えまして、今では9・10人程にも達しております。これも参加されている皆様方のおかげと感謝申し上げます。

さて、二年目の活動では、毎回の定例会、そして特別企画もあり、盛りだくさんに充実していたと思っております。また、皆様方は皆様方各自の分野で活躍をされておられること喜ばしい限りです。

二年目の会報では、そうした活動も含めて記事をまとめました。手作りの会報ですので、至らないところは多々あるかと存じますが、皆さんで盛り上げる会報だから、それで十分かとぞんじます。これをもちまして挨拶といたします。

なお、会の詳細は、HP を見てください。会員数は現在13名です。

<http://buna.html.xdomain.jp/cafe.html>

または「街中ゆったりカフェ」で検索。

2. 活動記録

◆記録概要

会の発足 14年11月20日(水)

定例会の開催

上市町音杉公民館にて、

月一回(原則第四水曜)、13:30-15:00

◆2014 年度 活動記録

第12回 3月25日(水) 13:30-15:00 7人参加

北前船と売薬、春の上市めぐり企画立案

第11回 2月25日(水) 13:30-15:00 8人参加

K氏：「小さなむらづくり」

B氏：「上市時間について、企画のあり方」

第10回 1月28日(水) 13:30-15:00 9人参加

H氏：上市時間や福島問題などの論評、

B氏：小杉の文化財、

K氏：大岩の企画、M氏：がん患者闘病

第9回 12月24日(水) 13:30-15:00 7人参加

参加者各位からの話題提供

第8回定例会は講演会参加で代用

11月26日(水)14:00-15:30 上市アルプス湯

講演会「温泉と健康」、

鏡森定信先生(富山大名誉教授)

第7回 10月22日(水) 13:30-15:00

三名の方が話題提供；音杉の歴史、

話題の本、立山の歴史

特別バージョン 上市黒川フェスティバル

10月12日(水) 08:30-15:00

黒川遺跡の見学会や講演会に参加

第6回 9月24日(水) 13:30-15:00

IT本屋、布橋灌頂会、片貝川、土木遺産、

木村監督

第5回 8月27日(水) 13:30-15:00 弓の里歴史文化館

歴史家三浦知徳先生講師；

中世土肥家について

第4回 7月23日(水) 13:30-15:00 弓の里歴史文化館

歴史家三浦知徳先生講師；

黒川遺跡について

報告書は3章に

第3回 6月11日(水) 10:00-11:30 弓の里歴史文化館
 歴史家三浦知徳先生講師；
 歴史談義
 報告書は3章に

第2回 5月14日(水) 10:00-11:30 弓の里歴史文化館
 歴史研究家三浦知徳先生講師；
 上市の石器と土器について



第1回定例会

4月9日(水) 13:30-15:00 上市公民館にて
 歴史研究家三浦知徳先生講師；
 石器時代の解説。



◆ 例会様相 14年9月、13:30-15:00、8人参加
 今回は、各自が話題を持ち寄り皆さんと語り合う。

<1>Ta氏

・ITを使って古本屋をやっている。本は口コミで集めている。

・今、朝活にはまっています。今日も富山の朝活にできました。この地でも朝活があるといいですね。

・コンピュータ技師をやったので、パソコンなどの相談を仕事にしていこうと思っている。

<2>M氏

・布橋灌頂会に参加しました。いい体験をしました。参加費はかつて5万円でしたが今は2万円です。布目隠しですが、布を通して外は見えます。そうでないと歩けませんね。

県外客が全体の70-80%でした。

<3>K氏

・片貝川の中流域に行ってきました。円形分水棟をみしてきました。富山ではいちばんおおきく美しいとされています。

<4>S氏

・土木学会主催の富山東部での歴史的土木構造物めぐりのツアーがあり、これに参加しました。コースは、立山砂防博物館、本宮砂防ダム、上滝の常東用水と常西用水のわけ口、他でした。ただし、横江頭首工はいかなかったのが、後でいきました。

<5>A氏

・市民大学講座にいくつか出ました。はじめに、木村大作の講座に出ました。剣岳の映画に関係して面白い話しが聞けるかと思って期待して言ったのですが、雑談風で期待はずれでした。その後、秋山仁の講座に出ました。由美がお終りのほうできていました。お昼弁当でなにやら椿事があったと聞いております。

3. 講演会記録

3.1 7月例会(7/23)

今回の様相

今回は、特別仕立てで歴史談義「中世、黒川遺跡」について、三浦先生からお話をいただいて、談義を楽しんだ。

記録：三浦先生の語りを以下のように文章化しました。ニアンスや正確さについてチェックしていませんが、会の様子葉伝わるかと存じます。なおイロク本文は編者の勝手な追加文。

1. 中世をどの年代とするか

・一般には、中世は武家政権以降すなわち鎌倉時代以降とされている。しかしながら、律令制が崩壊して天皇家以外の方が世俗権力を握るようになり、ここからが中世にという考えもある。（また院政時代からという考えもある。）

2. 立山信仰

・立山信仰のルートについて

信仰の経路としては、岩峠・芦峠のルート、大岩、黒川、早月、片貝などのルートがある。岩峠・芦峠のルートは加賀藩の時代になって藩にとってドル箱として定着。ただし、加賀藩以前にはルートに関する記録はない。

黒川ルート他は加賀藩が統治する以前に廃れてしまったとみられている。

・ルート沿いの石仏について

岩峠・芦峠ルートには、岩峠から室堂までに33箇所にも石仏が設置されている。もともとこのルートは当時からも観光用となっていたので、地元の資産家たちが寄進したといわれている。

3. 上市黒川遺跡群（円念寺山経塚 黒川上山墓跡 伝真興寺跡）

黒川遺跡は上山墓跡、古寺跡、京塚の3箇所をもって史跡に指定されている。もともとは、h8?年に黒川地域の道路建設工事に際して行われた調査で上山墓跡が発見されたことから始まって、関連の遺跡が発掘された。町は道路の経路変更により遺跡を保護し、町指定の遺跡とした。その後、史跡はh18年に国指定となった。

・遺跡調査は、ほとんどの場合、道路建設などの工事がきっかけである。道路が遺跡を避けるか、遺跡の上を通るかで、対応が異なってくる。前者の場合には遺

跡は史跡として指定を受けて未永く保存できる。後者については、徹底調査により記録を残し、遺跡は埋めてしまう。

4. 国の史跡指定

史跡が見つかったから指定を受けるまでには、土地収用という大変な仕事がある。対象となる土地では財産相続がされていない場合がほとんどであり、当時から何代も下って(末代まで)、地権者に実印をいただきに駆け回ることもある。極わずかだが土地収用に反対される地権者もおられる。（地権者は黒川の場合100人未満。砺波の増山城では500人）

その後、町は保存管理計画を策定しh18年に国の指定を受け、h23, 24には整備活用基本計画を策定した。結局、町はH8年から段階を追って粘り強く整備し今日に至っている。文化関係は長丁場の仕事といえる。

5. 中央と直結する上市

全国的にも珍しい一級の遺跡群がなぜ上市にあったのかの理由について、黒川地域をながれる郷川の下流には堀江の庄という京都祇園社の社領があった（元は藤原氏の荘園、藤原氏が寄進）。黒川域は荘園の方々が管理していたようだ。

時代が下って、土肥氏は荘園管理で相模からやってきた。彼らは禅宗をバックにしているため、山岳密教的な黒川の諸施設は彼らの庇護を受けることなく廃れていった。

6. 黒川上山の墓跡

・平安末期から鎌倉時代に作られた密集して築かれた墓67基。墓跡の広さは10数メートルくらいで、墓一個一個は1-2メートル高さの土饅頭のようにになっている。石室や石塔があり、その中には骨壺があり、そのまわりに、短剣が突き刺すように数本おかれ、また上部には(手鏡サイズの)鏡が置かれていた。

・一般に、中世の墓が墓単独で存在することはなく必ず宗教施設が周辺にある。黒川の場合もこの考えに従ってh8から開始した調査により、古寺跡と京塚を発見した。

・骨壺は珠洲焼きのものである。珠洲焼きは平安期から室町期まで東北日本海側に広く伝わっていた。余談だが、その後は越前焼きになったという。

・中世、焼き物三点セットと呼ばれるものは、壺、亀、すり鉢である。

・なぜ多くの墓があったのかについては、やはり豪族がそれだけいたと解釈できる。ただし、彼らは都人ではなく荘園に関係した地域の豪族であろう。

7. 古寺

平安中期頃の密教である真言宗の寺院。本堂、塔、山門、池などを配していたとされている。

8. 経塚

・平安末期から鎌倉初頭の経塚。平安末期の末法思想によって、経典を後世（56億7千万年後）に残すためのいわばタイムカプセルが経塚である。ちなみに、仏教では一番大事なものは仏像でも寺院でもなく、教義を記した経典（お経）である。

・経塚に入れたとされる経典は紙製のものや布製のものであったとされているが、発掘したときには長年の酸化作用によりそれらは朽ちて土のようになってしまっていた。

・黒川の経塚は24個（以上）あり、すべて同一時期に作られた。経塚が群をなす例は全国では那智、熊野、彦山の三箇所であり、しかも各地域の経塚は同一時期ではなく長い時間をかけて少しずつ作られ群になった。

・郷川が上流側にY字形分岐するが、このY字をなす尾根に経塚がある。尾根筋に沿って経塚がある。なぜ、尾根筋なのか。経塚が西国浄土を見据えていたのかもしれない（し、一番目立つところということなのかもしれない。）

尾根の一番高いところに基壇があり、そこで祭事が行われていたようである。

・出土品には密教法具や中国製陶磁器がある。基壇のところには「とっこしよ」がおいてあった（発掘の時には土がかぶっていた）

また、「銅けい」もあった。これは本来寺院で使われるものである。日用品が経塚に埋められていたことは大いなるミステリーである。

付録：黒川遺跡写真

上市町作成「上市黒川遺跡群」HPより引用

1. 黒川地域全景
2. 黒川上山墓跡蔵骨器出土状況
3. 円念寺山経塚3号経塚
4. 伝真興寺跡山門跡
5. 黒川上山墓跡出土遺物
6. 円念寺山経塚出土遺物
7. 伝真興寺跡本堂跡



1



2



3



4



5



6



7

3.2 6月例会(6/11)

1. 今回の様相

今回は、特別仕立てで歴史談義「古代の歴史」について、三浦先生からお話をいただいて、談義を楽しんだ。

2. イベント紹介

2.1 高岡市美術館 20 周年記念の企画

「メタルズ」と題して古代から現代まで、6/28-8/31

2.2 大江戸博物館のイベント 日本各地を巡回

「発掘された日本列島 2014」 7/26-9/15

3. 古墳時代を中心に談義

●三角縁神獣鏡について；

- ・埋葬の際に棺に据え置かれるのは魔よけらしい。
- ・鏡の縁が三角形断面ゆえに、三角縁という。
- ・裏面には神と獣が描かれている（レリーフ）。
- ・表面（鏡面）はゆるい凸状の形態。光が広がるようになっている。また、模様が浮かび上がるともいう。スクリーンの名時時代とはいえ、これは計算されたことかどうかは不明。

裏面にある5-6個くらいの小さな半球がついている。表面整形(加工)の際に、そうした半球が影響した結果のようだ。計算づくかは不明。

●邪馬台国論争

北九州説と近畿説があるが、最近は北九州から近畿までの広範囲な地域に複数の国が存在した連合の形態。その中で一番の国が北九州にあった伊都国であり、また交易で栄えていたであろう奈良のまき向遺跡のところ。まき向遺跡では、交易の中心として全国の土器がここで発掘されている。

●弥生時代の国

全国にもすでに多くの国があった。東には埼玉県、群馬県から、西は宮崎などまで。

奈良県は周辺が山に囲まれていて天然の要害であったので、大きな国ができたのではなかろうか。京都や大阪でもいいが、防衛の面で弱さがあつたのではないのか。

出雲についてもなぜ出雲に大きな国が出来たのかは不明。交易路であったためか。

●土器における表面の模様

どういうわけか写実性のものがほとんどない。日本には技術的に写実のスキルがなかったわけではない。写実を否定して抽象模様が多いのは何ゆえか。埴輪で

も、非常に単純なつくりである。犬の埴輪でも何でも。抽象化が魔よけなのか。

●伝承

- ・交易があると人が行きかい、物以上に何かを残すといったことで、どうも物語を作りたくなるのではなからうか。伝承が各地に沢山ある。ただし、伝承は史実にあらず、留意したい。
- ・大岩不動について、行基がしかも一日にして彫ったといわれている。しかしながら、行基の時代には不動明王の概念がなかった。また、物理的に一日で彫れるはずもない。こうしたことは伝承であって、願望なのかもしれない

●中国の歴史書の表記

中国は覇者。周辺国は蛮族。その捉え方で、周辺国に関する記述があるという。

- ・卑弥呼；どうも姫の神子が卑しいという字を使って卑弥呼になったのではという。
- ・邪馬台国；これもどうも大和が邪を含んで邪馬台国となったのではないかと。

●人骨などが残るには

日本は酸性土壌のため、有機物は分解されてしまう。今まで残っているのは、条件が必要である。銅の容器に入っていれば、銅イオンによって酸化をまぬがれることはありうる。京塚で物が残るのはこのたぐい。また、貝塚ではカリシュームイオンが酸化を中和して、人骨が残ることが多い。

●社会構造と生産水準

農耕社会では、土地が生産手段のため、土地管理を基にしてそれなりに社会構造が確立されたとみる。これに対して狩猟生活では、さほどの社会構造は形成されず。

●日本人

- ・アイヌ人と琉球人が人種的に同じ。多種民族との混血が日本本土で盛んであり、周辺域までいきわたらなかったと判断される。旧日本人が弥生人によって周辺に追いやられたということではないようだ。
- ・つい最近まで、騎馬民族が日本に入ってきて弥生人となり、縄文人を駆逐したといった説があったが、今では完全に否定されている。

●立山信仰

立山信仰は（黒部や）魚津、（滑川）、黒川、大岩、芦くら、岩くら、と各地にある。立山連峰がみえると

ころに住んでいる人々は、立山連峰を見て何も思わないはずはない。立山信仰は、各地で期せずして起こったといえる。

●発掘

- ・立山黒部一帯で県を中心に文化財に関する検討会を開いている。
- ・多摩ニュータウンの場合、全山をはいで調査をした。
- ・国分寺でも新築のときに表土をはいで調査がすすめられている。
- ・高台移転も縄文遺跡調査をすることになる。文化財法は特例を認めていない。認めれば法は穴だらけになるから。

●富山のことを知るには

奈良平安時代では、行政文書に富山の荘園ではどれだけの米が取れてといった記述があるという。歴史書や風土記述書があるわけではない。

近世になると、お寺が戸籍管理をするようになって、古文書として種々残っていく。

●上市について

上市は交通の要所であった三日市(上市駅付近の地)の上にあるから上市となったようだとのこと。

4. 寄稿文

4.1 嘉藤俊子氏記、「アルプスのちいさな村」、JA 発行月刊誌「家の光」に掲載

うさぎ追いし、、、で始まる故郷の歌、、、このメロデーが夕方 6 時に 30 軒弱の村の中心にあるスピーカーから流れて来ます。私には、♪♪志をはたしていつの日にか帰らん、、、♪♪の歌詞に聞こえます。2000 年、夫の故郷、大松村の古い生家に半世紀ぶりに帰って来ました。それまでは全国津々浦々をまわる転勤族、いわゆる<旅のさん>でした。

2 人とも農に携わった事が無く、農業には全く無縁の生活でした、が、郷にいれば郷に従えの夫の考えで何かと不安もありましたが、近所の方々に親切に教えていただき 1 から始動しました。

ここ、大松村は国の里山中間山地の補助を受けていますので、勝手に田畑を荒らす事は村に迷惑をかける事になるので、なれない中、皆さんの助けを受けながら、この 10 年余他の方々とは比べようもないミニチュア田んぼをつくっています。

秋の取り入れ後は、少しずつ、子供達 3 家族に新米をおくって、有り難うの言葉に自己満足と 1 年の無事にほっとしています。

摩崖仏や 6 本滝で広く知られている、大岩日石寺もすぐ近くにあり、村の棚田の上方からは能登半島、富山湾などが眺められる自然豊なうつくしい農村だと自負しています。これも、村の皆さんの日頃からの努力と汗のたまものです。

でも、日本のどの山村ともおなじで村は高齢者の割合がとても多くなかなか若い人を見かけません。

私がまだ若い(77)ということで支部長を頼まれました。いままで留守中は村の皆さんになにかとお世話になっていた事は充分わかっていましたので、少しはお役にたてるかしら、、、とお受け致しました。

若い頃住まっていた市ヶ谷、長男の通う幼稚園の近くに「家の光」の本社があり、社屋にいろいろとスローガンがかかっていたのが、日に浮かびます。

また夏休みに子供達と帰省した大松の家には「家の光」の本が今の地袋のうえに載っていました。付録の山菜の本はいつも姑が見ていた様におもいます。古い本ですが、いまも大切に持っています。いまは格段に美しく、内容の充実した「家の光」でも昔のも懐かしく見えています。本がたまると、ハンドメイド、料理、家庭園芸、等と切り抜いてそれぞれを又、本のようにして

整理しています。

大岩支部の女性部員、現在は 9 人となりました。平均年齢 80 歳です。でもみなさん昔取った杵柄で元気に本来の田畑づくりの他に、里芋のずいき作りやしょうがづくりに腰や膝をもみもみ励んでいます。先年、NHKの夕方の番組「暮らしの達人」に 5 人のかたたちが、しょうがの料理法をいろいろと紹介されました。

小人数の部員ですが、みな近くですぐ集まれるし、話もしやすく「家の光」の手作りハンドメイドの記事など主に利用することになりました。

目新しい記事があると試してみます。

チラシで作る携帯ストラップやネックレス、いろいろのカラフルなチラシはできあがると、思いがけない色が現れ、嬉しくなります。

私ごとですが、フライトでチュリッヒの飛行場に着了たとき、同乗した他国のとなりの女性にこのネックレス記念にあげました。サンキュウ、で嬉しかったです。

不要の布や T シャツ、で作る布ぞうり、とてもはまりました。100 足は作りましたが皆、差し上げて手元に 3 足のみ、、、又暇を見てみんなで作りたいです。

パッチワークも、部員に人気で、小物入れ、バック、大小、色、色、たまりましたが、女性はなぜか袋ものが好きですね、、作品は大岩地区の秋のふるさと 3 世代交流祭りに毎年出品させて頂き皆さんに見てもらい、交流の一つになっています。

アクリル毛糸で作るエコたわし、洗剤なしでもきれいに食器やステンレスの流し台がきれいになるので私は愛用し、友人などに差し上げています。

「家の光」にのっていましたが 新聞紙のエコバック J A 四万十へ電話をして作り方と作品を宅配便で送ってもらい、参考にして作りました。他の作り方也有很多あり、いろいろのバージョンがあり、とても楽しめます。外国紙で作ると何かしゃれて見えます。

人気で近所の小学校のバザーにも出させていただきました。

1 月半ばは大松地区では例年、おしるこの会が催されました。みなさんと気さくななか、折りをみて「家の光」1 月号に載っていた防災頭巾を紹介しました。

この頭巾は東日本大震災のあと J A 新ふくしま女性部が作った物で、万が一の備えに糸を簡単にほどいて使用出来るすぐれ物です。中は綿を入れるのではなく、下着、手袋、靴下、ハミガキセット、マスク、ミニポーチ、に小銭、と保険証のコピー等々を工夫してバスタオル、ハンドタオル、フェースタオル、が中に入っています。かぶってみても、なんら違和感を持たない物でした。みなさんも、ぜひ、お試しになったらと思います。

村の防災頭巾作りがきっかけで、JA アルプス女性部上市地区、(くらしの研修会)でも「防災頭巾の紹介」として、みんなで発表させていただきました。

去年は、上市地区女性学校で、やはり「家の光」の記事活用で、ネクタイで作るコサージュに取りかかりました。いろいろのネクタイ、思い出のあるネクタイ、カラフルなネクタイ(百鈎)、、、、いろいろな色味で楽しくできあがりしました。みのりフェアに出品しました。

ペットボトルのキャップで作るミニ針刺し、、、これも又、楽しく、いくつも作りました。小さいですが、結構使い度があり、たくさん作ってみなさんに差し上げました。友人が富山のどこかで同じ物が販売されていたと教えてくれました。

この花は、いまも、わたしのいろいろのソーイング箱に咲いています。

上市支部、相の木支部、大岩支部、ではここ 3 年ばかり、「家の光」で紹介された、しゅんこうちぎり絵の作品に挑戦しています。12 月に来年のえとのちぎり絵です。皆さんそれぞれのできばえに満足しました。これをアレンジして知り合いに年賀状を出した方も、、、

さてここで、大岩支部が入っています JA アルプス上市地区の紹介させていただきます。JA 上市支部、JA 南加積支部、JA 相の本支部、計**の会員で構成されています。

上市地区全体では食育交流事業として、相の木保育園児とさつまいもの栽培、収穫をしています。少しでも小さいうちから土に親しみ、農に関心を持ってほしいと思う気持ちでおこなっています。秋の収穫を園児

たちは楽しみにしていて、収穫したさつまいもは園で給食として頂きます。

上市町健康フェスティバルでは、いろいろと工夫した、手作りおにぎりを紹介し、きれいに盛りつけられた おにぎりは、地元ケーブルテレビでも紹介していただきました。

また他県の農家レストランをたずねての日帰り旅行、、、新米の頃、(愛の新米 1 にぎり運動)として高齢者と善意銀行へ新米を寄贈しています。

このように、地区も少ない人数ながらお互いの地区と助け合つて、JA 生活福祉の職員の指導の下、まだまだ元気ではりきっています。

今年の夏に大岩支部で「家の光」にでている料理を生活指導員に教わり料理を作りました。普段、家ではあまりなじみのない、色彩の美しい夏野菜のかんて寄せ、、、、、どうにか、固まりましたが、とても優しい味にほっとしました。

大岩日石寺より更に道をのぼっていきますと、浅生の村があります。

ほとんど民家がなく、今は住んでいるかたは 2 軒です。ここにある、空き家の民家をモデルにされたアニメ映画(おおかみこどもの雨と雪) 皆さんもご覧になったことと思いますが、映画が全国上映されてから、この場所を訪れ、癒される景色に全国から訪れ、人気です。村も少しは、活性化?と期待していますし、うれしくおもいます。

小さな村から若い人々が、出て行かれるのはとめられません。がすこしでも過疎化がストップし何とか村が維持できることがないかと、、、難しいのが現状です。今年の夏もラジオ体操が小学生中心におこなわれました、が、大松村は小学生ゼロ、老人達のラジオ体操でした。これからは健康寿命を意識して地域の皆さんと元気に過ごせる日々をと念じております。

昔、地元の方が作詩して一時は忘れられましたが、現在復活しつつある、大岩音頭を紹介します。

大岩音頭が流れる

2014 年 10 月現在記

貧困を脱し「普通の生活をしたい」女性たち

4 月 27 日放送の NHK スペシャル：調査報告「女性たちの貧困～“新たな連鎖 “の衝撃～”は、見えにくい現実をクローズアップし、大変考えさせられた。取材先は母子家庭の若い女性たちだ。

A さん (19 歳)：ネットカフェで 2 年半、母と妹 (14 歳不登校) と生活している。1 日に 1 食。生活費は主にコンビニのバイト代 10 万円。母親は周囲や行政に頼ることがなかった。

B さん (19 歳)：時給が高い早朝からコンビニで働く。中卒後病弱な母を助け家計を支える。一日 5000 円で家族の食事を用意し、残りは貯金する。彼女には将来保育士になる夢がある。保育士養成専門学校 (夜間部) 進学に向け、頑張っている。学費 3 年間 300 万円は辛い。

C さん (19 歳)：週末毎に地方から東京に出稼ぎに来る、トリプルワークの大学生。学費や生活費一切を自分で稼ぐ。将来福祉関係の仕事に就き母親を助けたいと願う。

D さん (大卒 24 歳)：貧困の連鎖を断ちたいと大学進学・卒業したが、希望する仕事に就けず、今も学生当時と同じバイトで、時給 800 円。奨学金の返済が厳しい。友人はカラオケ店正社員だが、月収 15 万円でボーナスなし。経済的余裕がないので、結婚・出産など考えられないと言う。

彼女たちのように“貧困の連鎖”が深刻だ。2011 年の OECD 調査では、一人親世帯の貧困率は、日本が先進国中最悪レベルの 33 位。シングルマザー 124 万人中、20 代の 8 割が貧困状態。

昨今政財界で「女性の活用」が叫ばれているが、実態は、非正規雇用が多く低賃金で、明日の生活も不安だ。彼女たちが、「理想は？」の問いに、口を揃えたように「普通の生活」と答えている。

「普通の生活」を求める権利は、憲法 25 条で保障されているはずだ。「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」、そうした生活水準を達成するような施策を国に要求する権利がある。しかし、彼女・母親たちはその権利を行使せず、生活保護申請を助言する人もいなかったことに注目したい。

いろいろな意味で憲法が危機的状況にある今、憲法を実生活に活かすことが急務だ。まず、行政との繋ぎの役割が大切だと考えた。私にとっても行政の窓口は遠い存在だったが、今回初めて地元の担当窓口で電話してみた。担当者によると申請を受け、調査診断を経て決定するまで、1 ヶ月余りかかり、受給条件のハードルが高いこともわかった。貧困支援施策の広報も不十分だと思う。

一方、コスタリカのように小学生でも裁判でたたかえるように、法を学ぶ教育・場が必要だと思う。伊藤真さんや小林節さんなど、弁護士・学者の皆さんも積極的だ。今が、行動するとき！

城端の曳山祭 豪華さに感激

立山町 林 順
(自営業 55歳)

こどもの日に、城端の曳山祭を見てきました。

去年までの五月中旬催行が今年から連休中に催されることになったという。初めて見る機会に恵まれ、大いに感激しました。

絢爛豪華な山車や京都、浅草・吉原の茶屋を模した「じゅう」と呼ばれる庵屋台の繊細巧緻な造作。「じゅう」の中、三味線や笛の音で歌われる端唄の妖しい艶やかさ。

そして何にも増して感動したのは、城端の人たちそのものです。穏やかで誇り

ユニークな美術展

立山町 林 順
(自営業 62歳)

「アートガーデン2012大岩山」が、上市町で開かれました。日石寺の境内や滝の前、百段坂、門前の旅館の部

に満ちた人々のその表情でした。

少休憩で「じゅう」から出て来られた唄い手の方、親切な詳しい説明をたまわり、どうもありがとございました。

櫻井よしこさんは、八尾の町を激賞されましたが、城端の町も素晴らしいと思いました。春の「曳山」と秋の「むぎや」。祖先たちが培い、築いてきた歴史や伝統が、これからも営々と受け継がれていくのだと確信しました。

喜々として山車を曳く祖父たち、その山車に乗せてもらってはしゃぐ子供たち。三味線を奏で、笛を吹く親たち。そして、それを支える女性たちが……

屋などを使って、ユニークな美術作品群が展示されています。

企画の一つとして開かれた「かみいち時間」は会費千円で夕食までついていました。立山博物館の福江学芸員による「立山曼荼羅」の講演があり、食事をいただきながら興味深く聴きました。

「曼荼羅」の絵解き、「劔岳信仰」などのこと、同町黒川の穴谷の山岳宗教との関連についても説明があり、「本地垂迹」の意味を初めて理解できました。

夕食は実に手が込んでいました。ご飯も料理もおいしく、もてなしの心とともに、秋の夜長を優雅な時間が流れて行きました。

充実した基調講演

立山町 林 順
(自営業 60歳)

富山市のCICCいきいきKANで、富山国際大学主催の「3・11以後の日本を問う」を拝聴した。5人の講師陣による基調講演は5時間におよんだが、充実していて長さを感ぜなかつた。

講演の最後を飾られた中嶋洋介・客員講師が紹介された書「『みんなの意見』は案外正しい」に示唆を頂いた。著者のジェームズ・スロウィックキーは、ニューヨークの人気コラムニストで、角川文庫刊をただいま、熟読中だ。

3月11日に端を発した未曾有の大災害。とりわけ原発事故の報に接するにつけて「ノ

ープレス・オブリージュ」という語が脳裏から離れない。「高き身分の者に伴う義務」の意で、いわゆる大企業の首脳や政治家、学者たちの真のエリートには、ことさら重大な義務や道徳が求められるということである。

期待どおりの 藤原氏講演会

立山町 林 順
(自営業 56歳)

上市町北アルプス文化センターで先日催された藤原正彦氏講演会・トークショーを聴いてきました。一日千秋の思いで楽しみにしていた講演会でしたが、期待どおりの内容で感動しました。

藤原氏は、近く木村大作監督の手で映画化される父、新田次郎氏の作品「劔岳 点の記」や、お父さんの人となりなどについて興味深いお話をされました。

さらに、わが国が現在抱えているさまざまな「病巣」について、まるでCTスキャナーの断層写真を見せる

ように端的で鋭い分析を行い、その「処方せん」を示されました。

私は読書好きを自負していますが、新田次郎氏の作品は残念ながらあまり読む機会がありませんでした。藤原氏が披露された父、新田氏の人生観、歴史観、世界観をみると、私の一番大好きな作家、山本周五郎氏に通じるものを感じました。

わが子藤原氏に自分の作品、生き方を評価してもらえた新田氏は、親として作家として最高に幸せな人だと思いました。

「劔岳 点の記」が映画化されたあかつきには、必ず劇場へ行こう。久しぶりにそんな期待感を抱かせた講演会でした。

5. 調査、研究、論評

文山純子氏論文、大山の歴史と民俗、第18号、2015年3月,pp.74-81. 大山歴史民俗研究会

立山町横江の蔵王社

文山 純子・平井 一雄

平成26年6月13日（金）

この日は雨でしたが大山歴史民俗研究会のミニ研修会に参加しました。佐藤武彦さんと平井一雄さんに岩峠寺地区と横江地区を案内していただきました。写真-1

絵の好きな私は横江の蔵王社拝殿外壁の鰻絵が気になりました。12枚もありました。交通が不便な時代にすごいことだと思いました。写真-2、写真3-1

さっそく射水市の竹内源造記念館で写真を見てもらいました。残念ですが竹内源造の作風ではないとのことでした。拝殿正面の鰻絵の真ん中の図柄は立山信仰に関係のある「違い鷹の羽根」2つ、左は「白鷹」、右は「熊」とすると立山町役場の文化財担当の人から教えていただきました。写真-2-1、2-2、2-3

佐藤武彦講師は、この蔵王社のある場所は立山信仰に関係した重要な道が通っていたとお話しされました。この重要な場所の蔵王社が気になって県立図書館で高木寂著『横江の「蔵王」や社殿の絵などについての覚え書』を紹介され調べて見ましたが拝殿の鰻絵や蔵王社の成り立ちについては書いてありませんでした。

奉納額についても読めない字があり、解説案を平井さんに書いていただきました。

写真3-2

横江地区の区長さんより資料をいただきましたが「鰻絵」についてはわかりませんでした。わたしは鰻絵写真を紹介して発表にかえます。

蔵王社や横江地区の郷土資料については平井一雄さんに解説と解説をお願いしました。



写真-1 横江 蔵王社

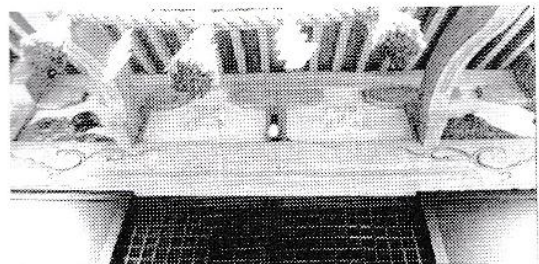


写真-2 蔵王社拝殿正面鰻

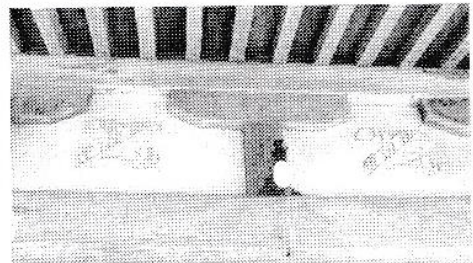


写真-2-1 違い鷹の羽

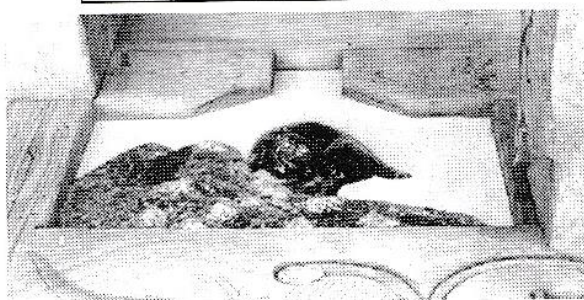


写真-2-2 熊

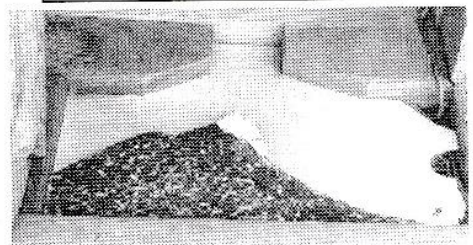


写真-2-3 白鷹

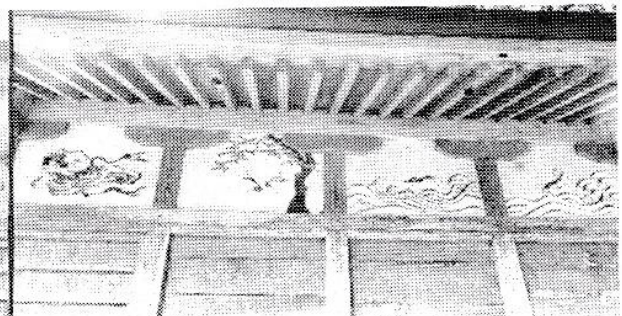
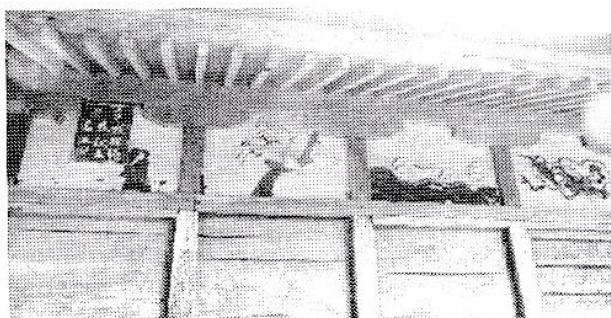


写真-3-1 蔵王社拝殿右側壁 左側壁 上部鰻絵

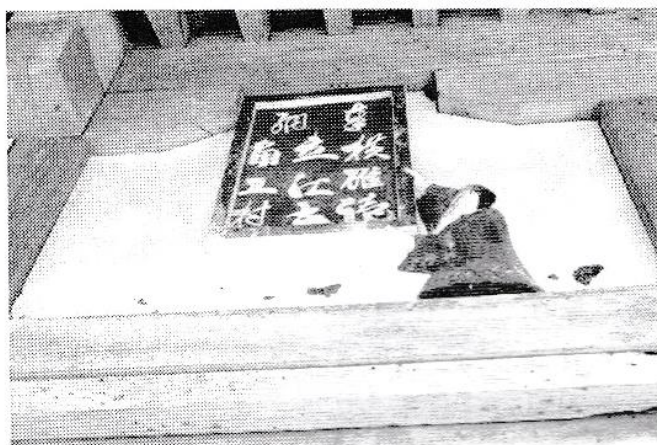


写真-3-2 拝殿右側壁上部鰻絵の奉納額と解説案

納	奉	
角	立	横
工	江	確

6. 資料

上市の歴史資料

本年度に収集した資料は以下の通りです。原資料は事務局にて保管しています。いつでも閲覧できます。

- 1) 上市の栄光編集委員会;上市の栄光 1980.3.31、
上市教育委員会

7. おわりに

今年度の活動をまとめました。手作りの好きものの冊子ということで満足をしております。次年度はステップアップできればと思っております。

なお、事務局への連絡先は電話やeメールでおねがいします。

電話番号：076-472-4912 アドレスは
washi*theia.ocn.ne.jp 記号*を@に変えてご利用を。

■ 本会について

◇ 主旨（再記）

本会は、みなさんで気楽におしゃべりあうことを目的としています。日常の出来事、趣味などについて、おしゃべりたいことは沢山あります。月一回、第二か第三の水曜日前後におしゃべりの場を設けて、どなたでも自由に立ち寄って、おしゃべりを楽しんでいます。また、見学会や講師をお招きした勉強会も行っています。

なお、会とはいつでも会則無し、会費無しですが、これは緩い集まりということにしたいがためです。気楽な雰囲気をもちたいためです。このため、会員ということばもなく、いつも集まっていたく方ということになります。

◇ 最近のテーマと様相

二種類のパターンで運営をしています。第一が、特定のテーマを決めて見学や講演をいただくものであります。上市の歴史をテーマにしたりしています。第二は、皆さんが話題を持ち寄って話を楽しむものです。一人10分もあれば、1時間のこともあります。